

## 理学部 2 号館の改修

吉 川 虎 雄 (地理)

昨年の暮も迫ったところから、理学部 2 号館の改修工事が始まった。北翼部の外壁にそって足場が組立てられ、もとの間仕切りや新しい開口部が取りかわされるとともに、新年早々には古いサッシの取りはずしも始まって、工事は急速に本格化しようとしている。

理学部 2 号館は完成後 40 数年をへており、最近では、外壁化粧タイルの剝落、屋上からの雨漏り、サッシの腐食、水道の多量の漏水など、建物の老朽化が進んできた。ことに、ここで研究教育を行ってきた生物学・地学 6 教室とともに、この建物が建造された昭和初年にくらべて、その研究内容が大きく変わり、多くの実験測定機器が導入されたために、年々電気・水・ガスの需要がふえ、従来の配線・配管ではいちじるしく不足するようになった。そのため、すでに何度かそれらの増強工事が行われたが、昨今では、大規模な改修なしには、もはやそれらの増強も限界に達したとともに、危険の発生さえも心配される状態になっていた。

このような状況から、理学部 2 号館の全面改修はかなり早くから考えられてきた。しかし、当時ここにいた 6 教室は、狭い空間に多くの人員と多量の機器・標本・資料などがかかえており、改修期間におけるそれらの移転について方策がたたなかったために、改修計画の推進を見送らざるをえなかった。幸いにも、理学部 5 号館の完成にともなうて、地質学・鉱物学両教室の大部分が移転したために、多少の余裕を生ずるとともに、ここに残る動物学・植物学・人類学・地理学 4 教室がその移転跡地を利用するにあたって内部改装が必要になった機会に、全面的な改修工事が行われることになったのである。

改修計画は数年前から建物委員会を設けて検討されてきたが、その検討が具体的になったのは、理学部 5 号館の建造と地質学・鉱物学両教室の移転とが決った後のことである。改修計画の立案にあたっては、単に建物の補修と内部改装に止めず、理学部 2

号館を近代的な自然科学の研究教育の場に改善することが基本方針とされてきた。しかし、改修予算がかなり削減されたために、建物の補修についてはまだしも、設備の改善計画はかなりの後退を余儀なくされた。また、改修期間における研究教育の不便を慮って、改修工事が単年度の間に実施されることを希望してきたが、これも予算の関係から 2 年度にわたることになり、本年度は第 1 期工事として北翼部 4,358 m<sup>2</sup>が改修されることになった。改修完了後の教室などの配置と主な改修事項は、次のようである。

1. 理学部 2 号館に残る 4 教室の現在の配置はかなり入りくんでおり、教室ごとのまとまりに欠けているので、この機会にその再配置をはかることになった。改修完了時には、動物学教室は北翼部の地階・1 階、および 2 階の一部を、植物学教室は南翼部の地階・1 階、および 2 階の一部を、人類学教室は 3 階北翼部と南翼部および 4 階の一部を、地理学教室は 2 階および 3 階の南東部を、地質学・鉱物学両教室が 3 階南西部の一部を、それぞれ占めることになる。また、4 教室の図書室と地質学教室の残存書庫が 2 階中央部にまとめて配置され、地階北東部には R I 分室が従来よりやや拡張されて設けられる。内部の改修設計はこの再配置案にもとづいて行われるが、改修にともなうて変電室・機械室などの共用部分が多少拡張されるので、第 2 期工事の南翼部の改修設計ができた段階でないと、各教室が研究教育に直接利用できる面積は確定しない。その段階で、理学部各教室の資格面積にもとづいてたてられた配分案に従って、ここに残る 4 教室の占有部分が確定し、なお多少の余剰があれば、全体としては基準面積に不足する理学部としての利用が検討されることになるう。

2. 建物の補修では、外壁の破損箇所および屋上ルーフィングの補修、サッシの全面的な取替え、間仕切りの変更、床・天井の一部の補修などが行われるが、外壁の洗浄は取止めになった。また、老朽

化した屋上の仮設建造物や1階南側の旧温室は、その一部が排気用機械室に利用される他は、取こわされる予定である。

3. 設備関係の改修は当初の計画にくらべてかなり縮小されたものになる。電気・水・ガスの配線・配管は改善されるが、全面的な更新は見送られて、一部はもとのものが利用される。暖房設備は新設されるが、実験用空調設備は当初計画から大巾に縮小されて、ほぼ現状に近い状態に止まる。大型重量器材運搬のために希望していたエレベーターの新設も、第1期工事では見送りになった。また、改修後4教室が拡張した部分で必要となる設備調度品の購入は改修予算には含まれないので、別途に予算をうる必要がある。

初めにのべたように、改修工事は昨年末から始まったが、これに先立って、改修部分をあけるために、研究室・講義室の移転や機器・標本・資料などの移動・格納を行った。幸いにも、理学部1号館や大学本部・付属図書館などの御高配をえて、次のように分散して移転・格納した。

1. 理学部1号館の数学教室移転跡地に合計約570 m<sup>2</sup>の24室を借用して、研究室・講義室の一部を移転した。

2. 安田講堂内にある総合図書館の保存書庫に約800 棚の書架を借用して、図書の一部を格納した。

3. 新大学本部建設予定地の地下にある車庫と機械室の一部を借用して、器材・家具・図書などの一

部を格納した。

4. 理学部2号館の改修工事が行われない片翼部を4教室に再配分し、残りの研究室・講義室として利用している。

以上が主な移転・格納先であり、他にも大学の内外に移動したものがある。しかし、直接研究教育に利用しうる面積は、従来の使用面積の2分の1強にすぎず、きわめて狭い場所で、しかも散在して、研究教育を行っているのが現状である。しかも、器材・図書・標本・資料などのかなりの部分を格納したので、関係4教室はもとより、学内の利用希望者にも、改修期間中はかなりの不便をおかけせざるをえない。さらに、第2期工事の際には、本年度より広い面積の改修が行われるので、理学部2号館で利用しうる面積が本年度よりへるとともに、さらに追加して格納すべき器材・標本などがあるので、その対策に今から頭を痛めている。

ともあれ、長年の懸案であった理学部2号館の改修は、当初の計画からはかなりの後退を余儀なくされたとはいえ、ようやく軌道にのった。周囲の共同溝の工事と重なって、現在理学部2号館は工事現場のさなかにあり、内外の方々に多大の御不便をおかけしている。この機会に、理学部の皆様方や学内の関係者の方々からこれまで理学部2号館の改修によせられた御理解と御高配にあつく御礼申し上げるとともに、今後とも一そうの御支援を賜わるようお願いしたい。